



先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/12/01

米FRB9年半ぶりの利上げが濃厚

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	米利上げ後の「出尽くし」を警戒 予想レンジ: 119.800~ 125.500 円	2-3
<u>カナダ/円</u>	➡	原油価格に注目 予想レンジ: 89.000~95.000円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



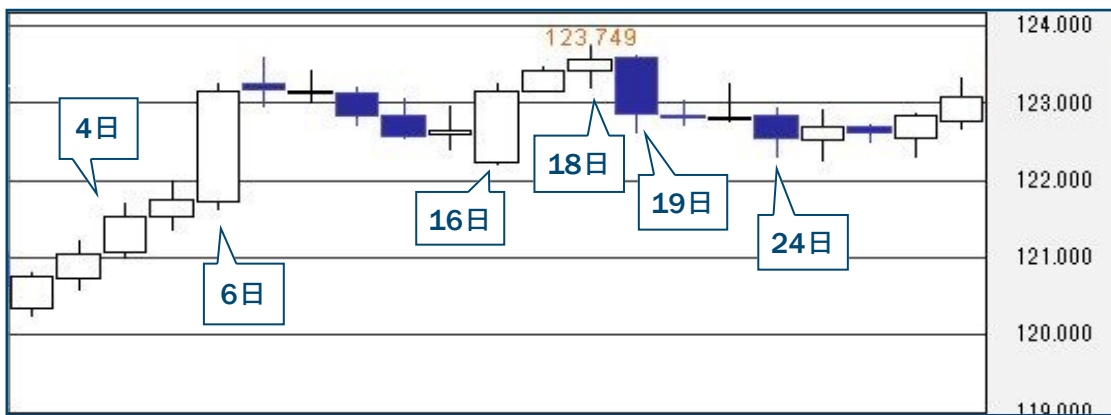
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 11月の推移

11月のドル/円相場は120.261～123.749円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.0%の上昇(ドル高・円安)となった。米10月雇用統計の好結果などから、米連邦公開市場委員会(FOMC)が12月15-16日の会合で利上げを決めるとの見方が広がるにつけてドル高が進行。パリで起きた同時テロ事件やトルコによるロシア機の撃墜などで地政学リスクが高まり、一時的に円が買われる場面もあったが、ドル高基調に大きな変化は見られなかった。ただ、下旬の米感謝祭ウィークは例年通りの動意に乏しい展開となり、ドルの上値は伸びなかった。



四本値	
OPEN	120.363
HIGH	123.749
LOW	120.261
CLOSE	123.090

4日	米10月ADP全国雇用者数が前月比18.2万人増と予想(18.0万人増)を上回った他、米10月ISM非製造業景況指数も59.1と予想(56.5)を上回った事を受けてドルが買われた。さらに、イエレンFRB議長が「米経済は良好に推移しており12月の利上げを正当化する可能性がある」との見解を示した事から米長期金利が上昇するとともに、ドルが一段高となった。
6日	米10月雇用統計は、失業率が予想通りとは言え5.0%に改善(前月は5.1%)して7年半ぶりの低水準となった上に、非農業部門雇用者数は前月比27.1万人増と予想(18.5万人増)を大幅に上回った。さらに平均時給が、前月比+0.4%、前年比+2.5%と予想(+0.2%、+2.3%)を上回る伸びを示した。これを受けて米2年債利回りが一時約5年半ぶりに0.95%前後まで上昇するとともにドル買いが活発化した。ドル/円は8月21日以来となる123円台を回復した。
16日	前週末(13日)にパリで発生した同時テロを受けて、オープンと同時にリスク回避の円買いが強まった。本邦7-9月期国内総生産(GDP)・一次速報は前期比年率-0.8%と予想(-0.2%)を下回ったが円売りには繋がらなかった。ただ、欧州株式市場がテロにもめげず底堅く推移した事などから次第に円売りが優勢となり、NY市場で米国株が上昇すると123円台を回復した。
18日	ロックハート米アトランタ連銀総裁やマスター米クリーブランド連銀総裁などから利上げ開始に前向きな発言が相次いだ上に、米FOMC議事録で「大半のメンバーが12月までに利上げの条件が整うと認識」していた事が明らかになると123.749円まで上昇した。しかし、「複数のメンバーが、景気の下方向リスクが残っていると指摘」した事などから、利上げのペースは漸進的なものになるとの見方から反落するなど、ドルの上昇は続かなかった。
19日	日銀が金融政策の現状維持(年間80兆円のペースで資金を市場に供給)を発表すると円買いが優勢となった。なお、黒田日銀総裁は定例会見で「物価の基調については『全体として上昇』との見方を変える必要はない」との認識を示した上で「経済・物価の上下双方向のリスクを点検し、必要な調整を行う」などと発言した。
24日	トルコ戦闘機がロシア軍用機をシリア国境付近で撃墜したと報じられると欧州株安とともに米長期金利が低下するとドル売り・円買いが優勢となった。その後、米7-9月期GDP・改定値が発表され、前期比年率+2.1%と予想通りに速報値(+1.5%)から上方修正されたが、内訳の個人消費が同3.0%と速報値(+3.2%)から下方修正されたためドル売り材料となり、122.30円台まで弱含んだ。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

米2年債利回

OPEN	0.7241%
HIGH	0.9502%
LOW	0.7240%
CLOSE	0.9304%

米10年債利回

OPEN	2.1422%
HIGH	2.3747%
LOW	2.1278%
CLOSE	2.2060%

日経平均

OPEN	18827.11
HIGH	19994.05
LOW	18641.22
CLOSE	19747.47

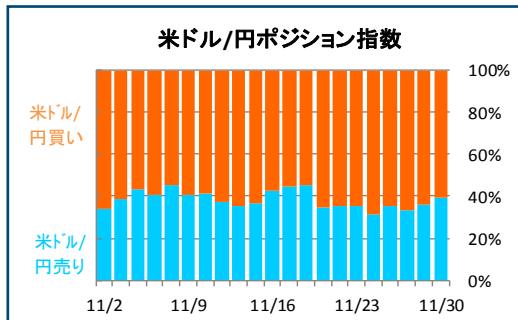
NYダウ平均

OPEN	17672.62
HIGH	17977.85
LOW	17210.43
CLOSE	17719.92

11月のポジション動向

12月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)



- ・11月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・11月米ADP全国雇用者数(2日)
- ・11月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・イエレン米FRB議長議会証言(3日)
- ・10月米貿易収支(4日)
- ・11月米雇用統計(4日)
- ・10月日本経常収支/貿易収支(8日)
- ・11月米小売売上高(11日)
- ・日銀短観(14日)
- ・11月米消費者物価指数(15日)
- ・11月米住宅着工件数(16日)
- ・米FOMC(16日)
- ・日銀金融政策決定会合(17-18日)
- ・11月米個人消費支出(23日)
- ・11月米耐久財受注(23日)
- ・11月日本消費者物価指数(25日)
- ・12月米消費者信頼感指数(29日)

12月の見通し

12月のドル/円は15-16日の米FOMCにおける利上げ決定を睨んで堅調に推移しそうだ。利上げがある程度規定路線となっている事から、米11月雇用統計などの経済指標については、多少予想を下回っても、ドル売り材料にしにくい面がある。反面、経済指標の好結果が続けば、利上げ期待がさらに高まるとともにドル高が進むと見られる。ただし、その分だけFOMC以降の反落リスクが高まる事にもなりそうだ。年内最終と目される大型イベントが米FOMCとなるだけに、利上げがあったとしても「材料出尽くし」を警戒しない訳にはいかないだろう。イエレンFRB議長がFOMC後の定例会見で先行きの利上げを急がない考えを示せば手仕舞い売りに拍車がかかる事も考えられる。ドル/円相場は、昨年12月も121円台まで上昇したのち、115円台まで急落する場面があった。例年、クリスマスが近付けば欧米勢を中心に休暇を取る参加者が増えて、市場の動きが鈍くなる事が多いが、今年は米FOMC以降、クリスマスまでのわずかな期間にポジション調整の動きが集中する可能性があるため、要注意だろう。(神田)

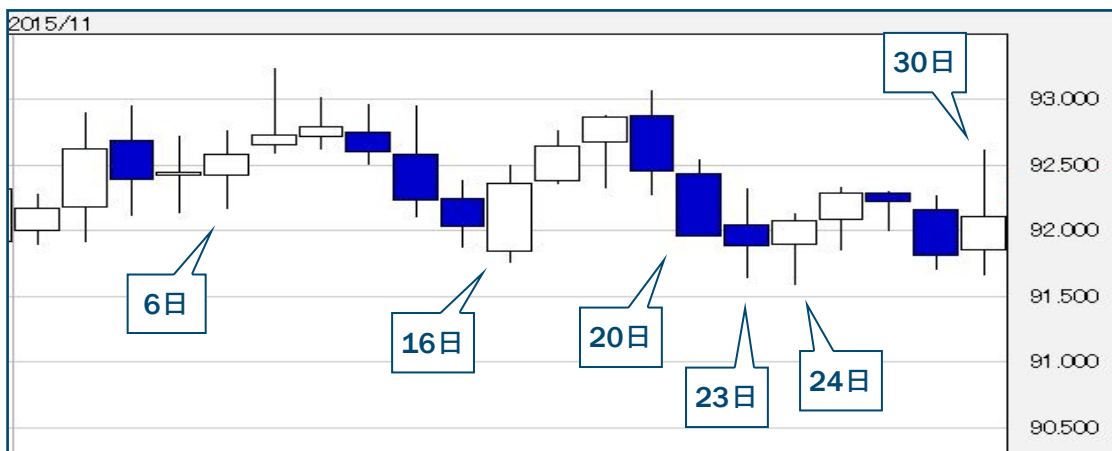
(予想レンジ: 119.800~125.500円)

カナダ/円 11月の推移

CAD/JPY

11月のカナダ/円相場は91.600～93.233円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.2%の小幅下落(カナダドル安・円高)となった。

月を通して加中銀(BOC)や日銀(BOJ)の金融政策に影響を与えるイベントが見当たらなかった事から、方向感を模索する展開が続いた。また、全般的にドル高が進み、ドル/カナダ相場が上昇(=カナダドル安)すると共にドル/円相場も上昇(=円安)したため、カナダ/円はこれらに挟まれて小動きが続いた。月の値幅はわずか1.633円と、今年最小を記録している。



四本値

OPEN	92.012
HIGH	93.233
LOW	91.600
CLOSE	92.112

6日	加10月雇用統計は失業率7.0%、就業者数4.44万人増と予想(7.1%、1.00万人増)より強い結果となり、カナダ買いが強まった。同時刻に発表された米10月雇用統計が予想より大幅に強い結果となった事を受けてドル/円相場でドル買い・円売りが強まった事も追い風となり、カナダ/円は一時92.763円まで上昇した。
16日	13日にフランス・パリで発生したテロを受けてリスク回避の動きが強まり、カナダ/円は取引開始直後に91.769円まで下落。ただ、その後は市場インフラや世界経済への影響は限定的との見方を背景に、安く始まった日経平均が下げ幅を縮小し、欧州株が上昇したため、92.504円まで反発した。
20日	加9月小売売上高が前月比-0.5%と予想(+0.1%)外の弱い結果となり、カナダ/円は92.006円まで下落したが、同時刻に発表された加10月消費者物価指数のコア指数が前月比+0.3%、前年比+2.1%といずれも予想(+0.2%、+2.0%)を上回る伸びとなった事から92.548円まで反発。しかし、NYダウ平均が上げ幅を縮小した事が重石となって再び下落した。
23日	サウジアラビアの内閣が「石油市場の安定に向け、石油輸出国機構(OPEC)の加盟国や非加盟国と協力する用意がある」と表明。これを受けてNY原油相場が一時1ドル超上昇すると、カナダ/円は92.320円まで上昇した。
24日	トルコが領空侵犯したロシアの戦闘機を撃墜した事が報じられると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は91.600円まで下落。ただ、これを受けて原油相場が上昇すると、資源株主導でNYダウ平均がプラス圏を回復した事から、92.136円まで反発した。
30日	加7-9月期経常収支が162.1億カナダドルの赤字(予想:152.0億カナダドルの赤字)となるも、カナダ/円相場の反応は限定的。その後は月末のロンドンフィクシングに絡んだドル/円の上昇に連れて92.613円まで上昇するも、原油相場の軟調推移が重石となって上げ幅を縮小した。

加10年債利回り

OPEN	1.545%
HIGH	1.757%
LOW	1.545%
CLOSE	1.570%

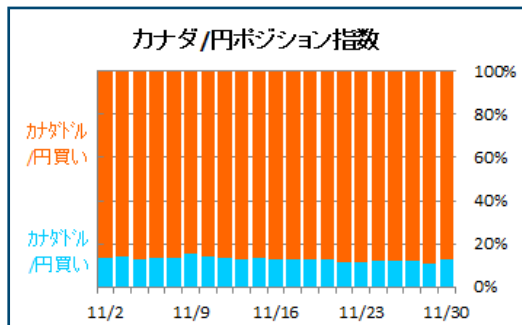
N Y 原油

OPEN	46.43
HIGH	48.36
LOW	38.99
CLOSE	41.65

NYダウ平均

OPEN	17672.62
HIGH	17977.85
LOW	17210.43
CLOSE	17719.92

11月のポジション動向



12月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・11月中国財新/製造業PMI(1日)
- ・7-9月期、9月加GDP(1日)
- ・加中銀政策金利発表(2日)
- ・11月米雇用統計(4日)
- ・11月加雇用統計(4日)
- ・OPEC総会(4日)
- ・11月中国貿易収支(8日)
- ・11月米小売売上高(11日)
- ・日銀短観(14日)
- ・11月米消費者物価指数(15日)
- ・米FOMC政策金利発表(15-16日)
- ・日銀金融政策決定会合(17-18日)
- ・11月加消費者物価指数(18日)
- ・10月加小売売上高(23日)
- ・10月加GDP(23日)
- ・原油相場、主要国株価

12月の見通し

12月のカナダ/円相場は、膠着した相場に動きを与えるイベントが見つかるか注目したい。

4日のOPEC総会について、世界的な供給過剰の中でも政策立案の中心的役割を担うサウジアラビアが増産を続けるとの観測が強い一方、価格安定を目指してロシアなどと協調減産を探るとの観測もあり、市場関係者の間でも見方が分かれている。もし減産が見送られれば、原油相場に下落圧力が掛かる可能性が高そうだ。NY原油相場が今年8月に付けた2009年2月以来の安値(37.75ドル)を割ると2008年12月に付けた直近安値(32.40ドル)まで下値余地の拡大が予想され、カナダドル相場の重石となるだろう。ただし、ロシアやメキシコといったOPEC非加盟の有力産油国がOPECとの協調減産に踏み切る事があれば、原油価格が上昇してカナダドル相場を押し上げる事もあり得る。

また、今月のBOC理事会(2日)については、現時点では政策金利の据え置き(0.50%)予想がコンセンサスとなっている。その際に発表される声明が、経済成長見通し(2016年が2.0%、2017年は2.5%)やインフレ見通し(コアインフレが持続的に2%に戻る時期:2016年第3四半期)が前回と比べ変化があるか注目したい。

なお、日本では日銀短観や日銀金融政策決定会合などが予定されているが、本邦の追加金融緩和観測につながらない限り、円相場主導でカナダ/円相場が動く公算は小さいと見る。(川畑)

(予想レンジ: 89.000~95.000円)